

令和2年5月27日

南の風 347

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

緊急事態宣言は解除されましたが、学校再開は6月1日（火）となります。6月末までは、分散登校・短縮授業による段階的再開です。ミニバスの各チームの体育館使用、中学校の部活動再開は、7月からになる予定です。練習できないフラストレーションはもうしばらく続きます。

愚痴を言っても仕方がないので、**元気を出して前を向きましょう！！**

5月に入りミニバスや中学校指導者の何名かの方とメールや電話で、指導についてのやりとりをする中、女子アンダーカテゴリーのジュニア育成の話になりました。

女子アンダーカテゴリー代表（U19～16）の取り組み方やワールドカップを通して世界の様子を知ることが、ミニバスや中学校の指導者にとって有意義と考えます。そこで今回は、女子アンダーカテゴリーの日本代表の取り組みから見えてくるものを取り上げます。

なぜ有意義かと言えば、

- ①女子アンダーカテゴリー日本代表の世界との戦いや、強化練習（合宿等）を通して、日本のジュニア代表の現状（長所や課題）を知ることができる。
- ②①のことから、我々ミニバスや中学校の指導者が、アンダーカテゴリーの日本の選手の長所や課題を共有して、日々の練習に生かすべきところがわかる。

内容は2018年の年末に開催された、第4回JBA コーチカンファレンス女子選手（U19～16）育成が中心です。命題は『シニア代表（全日本女子代表）につながる選手育成を考える』です。

この日のテーマは、「**みんなの代表を強くするために**」です。

講師は、女子アンダーカテゴリー日本代表チーム ヘッドコーチ 萩原 美樹子氏です。

ここで言う「みんなの代表」という意味は、全国の高校からミニバスの指導者が育てた選手（アンダーカテゴリー候補選手も含めて）ということです。アンダーカテゴリー候補選手は全国でおよそ56万人、そのうち女子選手は約25万人となります。

冒頭に萩原氏からつぎのような話がありました。

「女子アンダーカテゴリーの中から、シニア代表（日本代表）につながる選手を育成するのが私の大命題であるのですが、アンダーカテゴリーの選手は『みんなの代表』だと思っています。そしてメダルもちろんですが、世界の強豪国の少しでも上にいきたいという思いでやっています。その『みんなの代表を強くする』という課題でやっていくので、今日お集りの小学生、中学生、高校生の指導者の皆さんと思いをシェアしたいと思っています。

国際試合での勝ち負けの責任は、当然私にあります。ただアンダーカテゴリーの選手を育てていただいているのは、日頃現場でご苦労なさっている皆さんです。皆さんの選手をお預かりする以上、私に大きな責任があるのですが、代表合宿だけで強くしていこうというだけではなく、普段の指導現場の皆さんのご協力も得ていきたいと思っています。そこで今回、こういう時間をいただきました。」

次号では、日本女子アンダーカテゴリー代表の目標や課題について紹介します。